

分会情報

J R 東海 労 大 阪 仕 業 検 査 車 両 所 分 会
No.187 2017. 8. 30
発行責任者 松本 幸一
編集責任者 教 宣 部

初めから犯人扱い！！

田邊所長、臨時総点呼で訓示！

8月7日午前2：40頃、大阪仕業検査車両所の仕業庫0番線のレール（電車停止位置：1号車・No.1台車・No.3タイヤ）付近で、床下点検を行う際に使用する検修車の充電用コードが切断された状態で発見されました。

仕業担当で該当箇所を確認したのは木戸孝一助役でした。

該当箇所の確認後、木戸助役はまず、当該箇所で当日最後に検修車を使用・充電作業を行った松本社員に、切断されたと思われるコードの写真を見せて、充電の仕方の聴き取りを行いました。

これに松本社員は「充電用コードをローソク（レールを支える台）の内側から通してコンセントに差し込んだ。外側からだともコードの長さもあり無理があり作業しにくい」と話をしました。

これに対して木戸助役も「私もそう思います。コンセントに差し込めても、さうとう無理をしないと差し込めない」と話をしていました。

8月7日朝、作業終了後、会社は松本社員に時系列等報告書の作成を指示し、松本社員はありのままを時系列等報告書に記入・作成しました。

ところが8月9日朝、作業終了後、松本社員は再度会社から呼び出され、時系列等報告書の追記を指示されました。時系列等報告書の追記後、東尾英明助役から「新しい事実が出てきた時は、虚偽の報告になりますよ」という脅し言葉を浴びせられました。

しかもこの時系列等報告書の追記を行っている同時刻、松本社員不在の場所で臨時総点呼が開催をされ、ここで田邊幸司所長から以下の訓示がなされました。

【訓示内容】

8月6日翌日の仕業検査において、設備を損傷させる事象が発生した。発生状況は床下検修車の充電を行う際、充電コードをレール上部から通したため、出庫車両の車輪とレールの間に充電コードが狭窄し、切断させたものである。

レール上に物を置くことは、鉄道の安全を著しく損なう行為である。また、夏季安全輸送期間中にこのような行為を行ったことは、緊張感が著しく欠如していると言わざるを得ない。明日、8月10日からお盆輸送が始まる。いま一度、基本動作の遵守と安全最優先を意識した行動をとられたい。

なお、4月の臨時総点呼でも話したように、最近のヒューマンエラー、ヒヤリハット、不祥事を発生させた社員の多くは、経験豊富なベテラン社員であり、今回の関係者も例に漏れずベテラン社員であった。仕事から挨拶、身嗜みに至る本来、ベテラン社員が若手社員の見本となるべきところであるが、最近の当所の状況を見ると全く逆と言わざるを得ない。ベテラン社員には仕事、挨拶、身嗜みなどどれをとっても若手社員の見本となる行動をすることを期待する。

時系列等報告書の内容などまったく無視！！ 会社のシナリオ通りに訓示！！

田邊所長は時系列等報告書にどんなことが書かれていようがまったく無視し、松本さんを犯人にデッチ上げようとしています。その証拠に松本さんは時系列等報告書に「充電コードをレール上部から通した」と一言も書いていないし、会社はこの追記を2度目は訓示の最中に、3度目は8月16日にも指示しているのです。しかし、追記内容はほぼ同じで少し詳しく書いたにすぎません。

**その後、これに関して会社は何も言わないのは、
この時系列等報告書は正確で正規なものとして処理されたのでしょうか！！**

なぜ、会社は松本さんを犯人にしたいのか？

松本さんは田邊所長に、訓示の中のベテラン社員のことについて、私のことかどうかの確認をしました。すると田邊所長は「私は松本さんがやったと思っている、他の人が悪意を持ってやったとは考えたくない」と答えました。田邊所長が断言する証拠はどこにあるのでしょうか？

松本さんはJR東海労大仕両分会の分会長であります。

私達、JR東海労大仕両分会は会社に対し「間違っていることは間違っている！」とはっきり声を上げ、現場社員の賛同を得ています。

田邊所長はこのことを苦々しく思っているのではないのでしょうか！？

真正面から言えないので「デッチ上げ」という姑息な手段で攻撃をしているのです。

少なくとも田邊所長はまったく現場社員を信用しない現場長であることは間違いありません！！

私達、JR東海労大仕両分会はこの冤罪について強く抗議すると共に、真相の解明についてあらゆる手段を駆使して闘っていきます！！